「社協」は、みなさんの参加とささえあいで、地域福祉をすすめる福祉団体です。

ホームページアドレス
http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo/

令和4年
1月
No.170

開”地域福祉”

よこすか社協だより

since 1951
YOKOSUKA

編集・発行── 季刊
社会福祉法人
横須賀市
社会福祉協議会
〒238-0041
横須賀市本町 2-1
TEL.046-824-3435
046-821-1301
FAX.046-827-0264

地域福祉の推進は「ハイブリッド」で

最近は、情報通信技術を活用したテレワーク、オンライン授業やミーティングが行われています。ウイルス感染拡大防止のほか、時間や場所の制約を受けない点で、柔軟性や効率性に優れるといわれます。

その一方で、従来の対面には、心情の伝わりやすさ、場の共有により生まれる連帯感などの良さがあります。

これからは、それぞれの良さを活かした「ハイブリッド（異種のものの掛けあわせ）」が増えていくかもしれません。

一人ひとりの強みを活かしながら、「横須賀の福祉をハッピーに」という共通の目標へ向かって取り組むキーワードは、「ハイブリッド」です。

〈イラスト協力〉
関東学院大学漫画創作部 color’s

共同募金へのご協力ありがとうございました

新型コロナウイルスの影響が未だ残る中、多くの方のご協力により今年も共同募金運動を進めることができました。

お寄せいただいた寄付金は「自分の町を良くするしくみ」をメインテーマとして、私たちが暮らす地域の福祉活動を推進するために役立てられます。

また、コロナ禍で生活に困窮されている方々や生活・教育環境の変化を余儀なくされる子どもたちを支援するため、全国の共同募金会では、企業の皆さま方や社会福祉協議会、NPO法人等と連携して、こども食堂やフードパントリー（食料を必要な方に配布する活動）、学生向けの「食」支援も行っています。

『よこすか社協だより』は、みなさまからの賛助会費ならびに共同募金配分金を財源として発行しています。

つながりをたやさない社会づくり
～あなたは一人じゃない～

コロナ禍　×　共同募金運動

運動を開始した10月1日は、台風16号の影響で市内の街頭募金活動はすべて中止。しかし、コロナ禍においても共同募金運動は立ち止まることなく、「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」をテーマとして、「募金活動実施にあたっての衛生配慮に係るガイドライン」に基づく感染症対策をしながら運動に取り組みました。

コロナ禍での募金活動

募金活動に協力いただく地域の募金ボランティアの皆さんには、①健康管理の徹底（検温等）、②手洗い、手指消毒の励行、③マスクの着用、④対人距離の確保（三密の回避）などの基本的なことをふまえていただきました。

また、京浜急行線やJR横須賀線の駅前、スーパー、商店街などで通行する方々にお願いする街頭募金や各ご家庭を訪問してお願いする戸別募金では、可能な範囲で次のように活動をお願いしました。

街頭募金

●ご寄付いただく方と直接手が触れないように
- → 使い捨て手袋を着用

●大きな声を発して呼びかけない
- → 共同募金をPRするCDをラジカセで再生
- → 手持ち看板を掲げて文字による呼びかけ

戸別募金

●訪問時間は短く
- → なるべく屋内には入らず玄関先でお願い
- → 領収書は後日ポストに投函

●ご寄付いただく方と直接手が触れないように
- → 寄付金の収受は封筒で行う

コロナ禍における緊急支援活動

コロナ禍で日常生活に困難をかかえる子どもや家族を支援するため、令和2年5月から中央共同募金会と全国都道府県共同募金会が「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援全国キャンペーン」を実施しており、緊急配分事業として横須賀市内の食料支援団体やこども食堂、児童養護施設への配分も行われました。

また、課題の長期化が懸念されるなか、令和3年度は新型コロナ感染下の福祉活動応援という枠組みを継続させつつ、民間の相談支援活動、食支援や居住支援、居場所を失った人への活動などを中心とした支援を行うべく「いのちをつなぐ支援活動を応援!～支える人を支えよう～」をテーマとした全国キャンペーンが展開されています。詳細は、神奈川県共同募金会のホームページをご覧ください。

飲料を購入することで共同募金に寄付される自動販売機を設置してみませんか？

神奈川県共同募金会では、清涼飲料水取り扱いメーカーと協働して、赤い羽根共同募金仕様の社会貢献型自動販売機の設置を推進しており、現在、県内62か所の福祉施設、病院、金融機関、企業、工場などが設置に協力しています。

自動販売機で飲料を購入すると寄付ができる仕組みで、設置者への販売手数料や寄付金の集計管理は、すべて各メーカーと共同募金会が対応しますので、通常の手続きで自動販売機を設置することができます。

取り扱い飲料メーカーや設置前後の流れなど、お気軽に神奈川県共同募金会へおたずねください。
TEL045-312-6339　ホームページhttp://www.akaihane-kanagawa.or.jp

共楽荘（社会福祉法人阿部睦会）では、施設を利用するお年寄りや訪れたご家族、職員の方々などに利用されています。

あなたのまちの地区社協

～シリーズ第13回～ 上町第1地区社会福祉協議会

安心して豊かに暮らせる福祉の町作りを

上町第１地区社会福祉協議会　会長　安部　春男

＜地域の特色＞

地域内にある横須賀市文化会館に隣接する平和中央公園が一年をかけて、全面的にリニューアルして、令和3年5月『第32回全国「みどりの愛護」のつどい』の式典が秋篠宮様をお迎えして行われる予定でしたが、コロナ感染症拡大のため中止になりました。公園内には、地域内の豊島小学校の児童と植樹したサクラも育って、やすらぎの広場に新設の平和モニュメント点灯で、新しいシンボルとなりました。

上町第1地区社会福祉協議会は、上町連合町内会（10町内会）と、上町第2連合町内会の中から2町内会の、計12町内会で構成されています。各町内会の民生委員児童委員、社会福祉推進委員、ボランティア運営委員他有志から役員を出して構成しています。

上町第1地区には、行政センターやコミュニティセンターがなく、多人数の集り等は地域内の町内会館をお借りして行っている状況ですが、地域内の人口4,433名の方々一人ひとりが、助け合いながら支え合っていく思いやりの福祉の町づくりを目指して活動しています。

高齢者お楽しみ会

アロマ芳香剤作り

ボラセンバザー

＜主な活動＞

＜75歳以上のひとり暮らしの方々等のお楽しみ会＞

高齢者や障害者を対象とした福祉活動として、文化会館の中ホールをお借りして演芸・演奏・歌・カラオケなど、食事をしながら楽しんでいただいています。

＜おひさま広場＞

未就園児を対象に年6回、青少年会館をお借りして保護者と一緒にお遊び会を行っています。

＜賛助会員＞

「ボランティア活動はできないが、多少のお金なら」とのお心でいただいた賛助会費（年間2,022名・約60万円）を社協の活動費とさせていただきました。

＜夏休みのラジオ体操へ助成＞

助成金をお渡しして、町内ごとに子どもからお年寄りまで大勢で行っています。

＜ボランティアセンター（毎週火曜日・金曜日開所）＞

手助けの依頼があった時は、各町内会長、民生委員児童委員に連絡して対処していただくようにしています。（ボランティア登録者数75名）

◯市立うわまち病院の花壇の手入れと水やり（令和2年度は延べ107名）

◯ボラセンまつり・バザーやアロマオイル作り、カラオケ等を行って楽しんでいただいています。

＜これから＞

コロナ感染拡大の収束を願い、皆で元気に協力し合いながら、地域の方々のためにおもいやりの心で活動をしてまいります。

＜市社協からのコメント＞

上町第1地区社協は「支えあう　住みよい社会　地域から」をテーマに、地域の誰もが安心して暮らせる町づくりを進めています。中でも高齢者を対象としたお楽しみ会やいきいきサロンの開催や、子どもを対象としたおひさま広場の開催、新1年生を地区の広報で紹介する等、幅広い年齢層の住民を地域一丸となって支えていこうという強い気持ちを感じます。歴史ある街並みと新しい力が融合した上町商店街のように、様々な世代のアイデアを生かし、地域を盛り上げていきましょう。市社協も一緒に頑張ります。

みんなで応援しよう！コロナ禍での地域作業所の今

新型コロナウイルス感染症のため、平時の活動ができないのは、どこでも共通の悩みです。そのような中でも地域の企業等の応援をいただきながら、頑張る地域作業所を代表して、横須賀・三浦作業所連絡会の海原さんに、「地域作業所の今」をレポートしていただきました。

製品の販売場所が少なくなってきた中で新たなチャレンジ！

横須賀・三浦作業所連絡会　海原　泰江

新型コロナウイルスの感染拡大によって、三度の緊急事態宣言が発出され、本来ならば秋はバザーが目白押し、どこの作業所も毎週末近隣のバザー会場に出向き、製品販売を実施していました。しかし、予定されていた多くのバザー等はこのコロナ禍の中で軒並み中止になってしまいました。バザー等で販売された製品の売り上げは経費を引いて利用者の方の工賃になります。僅かな金額であっても、利用者の方にとってはご自分の労働の対価として得難いお金です。工賃を楽しみに仕事に励んでいる利用者の方にとっては、販売場所がなくなるということは死活問題です。

通信研究所におけるスマートストアへの参加

そのような状況の中、通信研究所の新しい試みとしてスマートフォンを活用した無人販売（スマートストア）で、「研究員の方を対象にお菓子やパン・お弁当等の販売をしませんか」とのお声掛けをいただきました。スマートフォンを使いこなせない私にとって、どのような仕組みなのかさっぱりとわかりませんが、「ぼくのくれよん」の重野さんが様々な橋渡しをしてくださり、10月からスタートしました。販売は食べ物が中心ですが、スマートストアに参加したことによって、通信研究所内の他の場所においても期間を定めて無人販売をすることができました。いつも気に掛けて下さっている総務課の方々のお蔭です。

新たな取り組みについて

市役所内のともしびショップマリンを通して、商工会議所のゼンプラス（海外向けの通信販売サイト）への参加も現在調整中です。まだ、実績はありませんが、今後少しでも前進していけたらと考えています。また、放課後デイサービスを運営しているキャメル・アンド・カンパニーの社会貢献型オンラインショッププロジェクトPDｐ4を私たちの事業所と連携して活動できないかとのお話もいただいています。

アイデア＆アドバイス募集！

コロナ禍の中、新たな試みにチャレンジし、販売の安定化ができれば…と考えています。この紙面を読んでくださっている方で、販売拡大や売上増加のためのヒントがあればぜひ教えてください。

※ご連絡は市社協へ（電話、FAX、電子メール）

第12回 # あんしんセンターレポート

よこすか市民後見人養成研修　開講！

社協だより7月号で受講者募集した養成研修が9月9日開講しました

昨年度はコロナ禍で研修実施を断念しましたが、横須賀市と市社協が「市民後見人からの支援を待っている方々のためにも、今年度は絶対に実施する」という強い思いを持ち、研修の実施方法、内容などをコロナ禍においても対応できるように再編成しました。

これまでの研修との一番大きな違いは、今年度からはインターネットを使ってご自宅などでも研修を受けていただけるようにほとんどの講義を「オンライン受講可」としたことです。オンラインでも受講できるなら、在宅ワークや家事の合間を上手に使えば受講できるということもあり、多くの現役世代の方々が受講中です。

また、コロナ禍ではほとんどのイベント、研修などが中止や延期になってしまい、いろいろな人との交流や出会いの場がなくなり、私たちの生活も一変しました。重症化率が高いといわれる方々はより大きな変化に見舞われ、誰とも会わない、話さない日々が続いていたと思います。時間には比較的余裕があっても、外出や知的好奇心を刺激するものが見当たらなかった中、市民後見人養成研修の募集記事をお読みになり、「全部の講義は受けられないけれど、自分自身や家族のために知っておきたいから、この講義とこの講義を受けたい」という方々も受講中です。

この研修は、3月初めに全カリキュラムを終了します。小論文、効果測定テスト、面接などを経て、令和4年4月1日に「よこすか市民後見人」としてデビューする方々の活躍にぜひご期待ください。

次にデビューするのは、この記事を読んだくださったあなたかもしれませんね。

会場で受講する様子

アクリル板の設置や
間隔を空けて座るなどの
感染対策を実施

講義中の講師

市民後見人の活動にご興味がありましたら、市社協にお問い合わせください。
市社協あんしんセンター　TEL：821-3605

羽ばたく翼、ともに築く未来
かながわ信用金庫
年金のお受け取りは「かながわ信用金庫」へ

「よこすか愛しているかい?」知れば知るほど楽しい横須賀散歩 vol.5「浦郷町」

浦郷町は「浦ノ江」とも書かれていたことが相模風土記から分かります。「郷」の草書体が「江」に似ているので、これが「浦郷」の由来かもしれません。

「横須賀市史」には、御浦郷（みうら）・田津郷（たづ）・氷蛭郷（ひひる）・御埼郷（みさき）・安慰郷（あい）の五つの郷名（郷は郡の下に位置付けられた行政単位）と、そのなかの御浦郷が浦郷に変じたと思われると記されています。

浦郷の地名は平安時代にはすでに存在した地名であります。戦国時代、小田原の北条氏の家臣であった朝倉能登守景高（あさくらのとのかみかげたか）が開いた「浦郷陣屋※」に名前が残ります。そして、江戸時代までこの陣屋は使われていました。良心寺（追浜南町）近くの京浜急行の踏切近くが陣屋のあった場所で、今でも「大門」と呼ばれています。良心寺には、朝倉能登守夫人のお墓があります。夫人の戒名「良心大姉」から寺名が付けられました。

現在の浦郷町とは異なりますが、京急の車窓から良心寺やかつて浦郷陣屋があった辺りを見ることができます。

浦郷町内に今も残る昔の名称の一つ・深浦湾（2008年12月18日撮影）

※陣屋…軍勢が集まり居るところ。

「よこすか歴史の交差点」　齋藤秀一

＊「よこすか歴史の交差点」は、歴史愛好家たちを中心に市民が集うサークルです。＊歴史には諸説あります。

賛助会員のご紹介

令和3年9月1日～令和3年11月30日〈順不同・敬称略〉

★個　人（29人）

熊谷節子、岩間道夫、岩間数子、飯野雄彦、金子二三子、瀧野勤、瀧野英子、渡辺繁、志邨猛彦、小岩功、鳥山常治、鳥山佐代子、田嶋敏彦、清水君子、北川しん、大石朗、富澤明、島田一志、樋熊美智代、樋熊教幸、杉野春美、二村和彦、二村千枝、二村薫、小泉かよ子、宮本隆和、宮本和子、匿名

★団　体（2団体）

㈱アイビーコンサルタント、㈲湘南大滝商会

☆加入方法☆

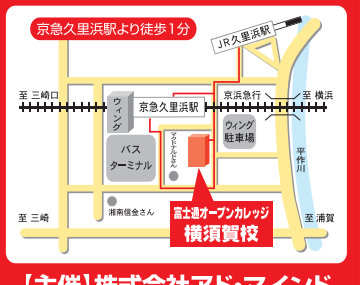
お名前とご住所を、電話・はがき・ＦＡＸ・Ｅメール等でお伝えください。かながわ信用金庫と湘南信用金庫の振込用紙を送付させていただきます。
（両信用金庫のご協力により振込手数料が無料になります）

★個人会員 一口 １０００円
★団体会員 一口 ５０００円

＊会費は年度会費（4月～3月）となっており口数は何口でも結構です。

〒238-0041 本町2－1 総合福祉会館2階
横須賀市社会福祉協議会　総務課
TEL（821）1301
FAX（827）0264
E-mail shakyo@wg7.so-net.ne.jp

受講生募集中
中高年のためのパソコン教室
随時入校を受け付けています!
感染症防止対策を実施していますのでご安心ください
富士通オープンカレッジ横須賀校
お問い合わせ TEL.046-838-0402
お気軽にお電話下さい



【主催】株式会社アド・マインド

ボランティアセンターを彩る四季／『ふくわらい』＊登録ボランティア布おもちゃグループ《ポケット》製作

よこすかボランティアセンター

場　所　〒238－0041 横須賀市本町２－１　総合福祉会館４階
開　所　月曜日～金曜日　8時30分～17時15分
〈土･日曜日と祝日は休み〉
電　話　(821) 1303・(825) 0017 ／ FAX (824) 8110
E-mail　shakyo-v@abox22.so-net.ne.jp
ホームページアドレス　http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/vc/
※ボランティア等の申込み・問合せ先を明記していないものは、よこすかボランティアセンターが窓口です。

3年振りの開催に向けてキックオフ!!

第5回 ボラ連 キックオフフェスタ

入場自由

新型コロナ感染症対策によって、これまで当たり前に過ごしてきた日常生活が奪われてしまい、「非接触社会」が求められてきました。

ボランティア活動の原点は「どこまで当事者の方に寄り添うことができるのか？」が命題であり、このことは、多くのボランティアの方たちが、悩み、探求しながら活動を行なっています。

会合や練習、そして当事者の方との接触もままならない時間が経過しました。

幸い新規感染者数も減ってきました。いま一度原点に立ち返って、新たな年度に向かって、コロナでできなかったことに“キックオフ”、新たな出会いを求めてみたいと思います。

※ボランティア団体は現在130団体が登録されており活動を行っています。

日　　時：令和4年3月5日（土）
10時～15時30分（予定）
場　　所：総合福祉会館　5階全フロアー（ホールほか）
内　　容：ボランティア団体･障害者団体との活動の紹介と交流
主　　催：横須賀市ボランティア連絡協議会
後　　援：横須賀市･横須賀市社会福祉協議会
問 合 せ：よこすかボランティアセンター

ボランティアさん大募集

ボラ連キックオフフェスタ当日のお手伝いをしていただく方を募集します。
活 動 内 容：会場案内･チラシ配布等
申し込み期限：2月9日（水）まで
詳しくはボランティアセンターまで、お問い合わせください。

運転ボランティア養成講座「福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習」

「ハンディキャブ『よこすか』」の運転ボランティアや非営利団体による移動サービスの運転者として活動するための講習会です。講習修了者には、国土交通大臣認定修了証を発行します。一緒に運転ボランティアで活動してみませんか。

日　時：令和4年2月20日（日）9時～18時　　**場　所**：総合福祉会館4階 第2活動室
内　容：利用者の理解や接遇・乗降介助等の対応、移動サービスの法律・制度などの講義と演習他
定　員：10人※先着順　　**参加費**：8,000円（テキスト代込み）
申込み：令和4年1月4日（火）以降に、①氏名（フリガナ）、②性別、③年齢、④住所、⑤電話番号をよこすかボランティアセンターへお知らせください。

AD.MIND CO.,LTD.
Design Production Company

最良の結果を導き出す良きパートナーでありたい。

当社は、ワンストップ･トータルデザインサービス企業として設立いたしました。お客様のニーズに最大限お応えするためにお客様との厚みのあるコミュニケーションを最重要と考え、プロセスひとつひとつに“想い=マインド”を込めています。

企画　デザイン〈Graphic･Web〉　撮影
eBook　3DCG　Movie　印刷

〒239-0807 横須賀市根岸町2-32-18 オギノビル/3F
TEL.046-838-0555(代) FAX.046-834-3331

株式会社 アド･マインド　E-mail:contact@admind.jp　URL:http://admind.jp

お気軽にご相談下さい

秘密厳守

※場所はいずれも総合福祉会館2階です。相談日が祝日に当たる時はお休みとさせていただきます。／12時～13時はお昼休みとさせていただきます。

生活福祉資金貸付相談

所得の低い世帯、お年寄りや障害のある方の世帯を対象に、安定した生活を送ることができるよう資金貸付の相談を行っています。

【資金について】

①お困りの内容によって資金の種類が異なります（一般生活費の貸付けはありません）。

②資金の種類によって民生委員による相談援助が行われます。

③原則として連帯保証人が必要です（市内在住の方）。

【予約制】窓口の相談は混雑していますので、お越しいただく前に必ず電話でご連絡ください。

●毎週月～金曜日
9時～11時30分・13時～16時
予約は TEL（821）1301
地域福祉課　生活福祉資金担当

住宅改造相談

ちょっとした工夫や改造をすることで、暮らしやすい家にすることができます。

障害者や高齢者のより住みやすい環境をつくるために、神奈川県建築士事務所協会の建築士が相談に応じます。

【予約制】

●毎月第4水曜日
10時～15時　市社協相談室
予約は TEL（823）0386
神奈川県建築士事務所協会横須賀支部へ
受付時間 10時30分～17時

オリンピック・パラリンピックの感動をよみがえらせよう！

横須賀市身体障害者卓球講習会のお知らせ

日　　時： 令和4年3月20日（日）　9時30分～16時
（受付　9時30分～／講習会 10時～）

場　　所： 横須賀市不入斗体育館サブアリーナ
（不入斗町1-2）

参 加 費： 無料

受付開始： 9時30分～9時50分

コ ー チ： かながわ信用金庫卓球部
久里浜卓友クラブ
横須賀市身体障害者卓球クラブウイング専任コーチ

持 ち 物： ラケット・上履き
昼食（1階に食堂があります）

連 絡 先： 080-6592-1970（柏崎）

主　　催： 横須賀市身体障害者卓球クラブ

ありがとう

社会福祉のために、温かい寄付がありました。（敬称略）
令和3年9月1日～11月30日

㈱根岸工務店、玉井歌謡塾　玉井明、飯島義信、匿名
山崎峰崇、（福）阿部睦会共楽荘、（福）あまね　あまね支援センター、手話サークル〝逸見〟、あじさい指の会、上町第2地区ボランティアセンター、衣笠地区ボランティアセンター、みどりクラブ、原田洋子、手話ダンスグループ「ゆらぎ」、16ミリ試写室、フロムワン福祉園、大津地区ボランティアセンター、井出新聞社、匿名

寄付金　7件　七九、五〇六円
物　品　27件

あとがき

様々な出来事をスルーしながらも乗り越え、走り続けた介護列車が、半年ほど前に仮の終着駅にたどり着きました。その駅は、望んで止まった駅とは言えませんが、車椅子に乗り、降り立った姑はポツリと「ここは良い所ですね」と言いました。

姑が生まれ育った景色を思い出させたその駅は、相模湾が一望できる素晴らしい環境にありました。

つきんぼ漁を営む家の7人兄妹の長女として生まれ、家の事は何でもやり、とこぶしやヒジキなど海産物を採りに行くのは苦ではなかったけれど、親のつきんぼ漁の稼ぎが少なくてとても貧しい暮らしだったと、お茶を飲みながらよく話してくれました。鰹や鯖を見事にさばき、皿に盛られた鋭い切り口の刺身、煮物のちょうど良い汁加減、アルミ鍋を両手で小気味よくひっくり返す鍋がえし等など、姑を盗み見しながら身に付けた主婦の技が、今では調理ボランティアとして地域の食事会に役立っています。家事仕事が苦手であった自分にとっては、とても厳しいものでしたが今となっては感謝のみです。

認知症の介護がいつ終わるとも知れず走り続け、味わった喜びや絶望感を無駄にせず、何かに役立てようと思う一方で、肩の荷を下ろした解放感を素直に喜ぶことができなくて、やっかいな感情に戸惑うようになりました。本当にあの駅に降ろして良かったのだろうか、もう少し頑張れたかもしれないのに等と考え込んでしまいます。そんな時、介護施設からの案内で初めてリモート面会をやってみました。テレビ画面に映る私共夫婦を見て「おめぇ誰だ！」と言われ、返す言葉がなくて笑うしかありませんでしたが、自宅にいた時よりも表情がずっと柔らかかった事に、救われました。

住み慣れた自分の家が終の棲家となるよう、横須賀市の高齢福祉政策は推奨していますが、現実はそう簡単ではありません。介護する人、される人が同じ介護列車の中で寝起きするという事がどんな事なのか、経験して初めて分かるのだと思います。ましてや独居者は、いかばかりでしょうか。もう間もなく自分も辿る道なのに、一向に準備に取り掛かる事ができない横着者の嫁を、相模湾が一望できる素晴らしい居場所で姑は笑っていられるに違いありません。

（Y）